



小学校高学年向け 年 組

277

那須拓陽高「牛部」で飼育

命と向き合い学ぶ

夏に挑む ⑪

2025年8月7日付・下野新聞22面

記事は加工しています

那須塩原市は生乳生産額本州1位と酪農が盛ん。ところが那須塩原支局2年目の記者は、飼育の現場をまだ一度も見ることがない。好奇心もあり今月4日、乳牛と和牛で計約60頭を飼育する那須拓陽高の「牛部」に1日体験入部した。

畜産の朝は早い。午前7時前に同市石林の同校乃木農場を訪ね、顧問の菅原礼太郎教諭(31)と部員2人に案内されて搾乳牛の牛舎に入った。次々と柵の間から首を伸ばす牛。頭の大きさにまず驚かされた。

最初に取りかかったのは給餌作業。前日の食べ残しを片付け、約10種類の餌を順番に与えた。餌やりは子どもの頃の金魚以来。とても緊張する。さらに干し草の塊を目の前に置いてあげ

那須塩原支局

しらishi
白石たかひさ
貴久

ると、すかさず食いついてくる。何度も給餌を繰り返す作業は想像以上にこたえた。

続いて10月の共進会に出展されるホルスタインの体をブラシで洗った。手元にぬくもりが伝わる。「きれ



歩き方の調教を体験する白石記者

いにしてあげたい」。親心のような思いも湧いた。歩行の調教にも挑戦した。体重の重い牛を制御する「頭絡」を握って前を向かせるのだが、これが一筋縄ではいかない。何とか一歩を踏み出したものの、ほ

■菅原礼太郎さんから一言

早朝からお疲れさまでした。積極的に取り組んでいましたが、声の大きさが気になりました。畜産業は人とのコミュニケーションが重要。場所によって声が届きにくい事もあり、声量を意識するのいいと思います。

んの数分で腕が悲鳴を上げた。部長の3年後藤未空さん(17)は「なでて褒めたり、歩幅を牛に合わせたりすることが大切」とこつを教えてくれた。

午前11時ごろに作業が一段落し、気付くと全身が汗でびしょ。夏休み中、週5日続けている部員には頭が下がるばかりだった。菅原教諭は「牛はペットではなく、パートナーのように対等な関係。そこを意識していれば世話をおろそかにすることもない」と言う。日々、命と向き合っているからこそその強い責任感。部員たちに大事なことを教えてもらった。

設 問

【1】記者の白石さんは、どこで、どのような体験をしたのですか。記事の中の言葉を使って簡潔に答えましょう。

【2】記事で紹介されている白石さんが主に体験した作業について、具体的に三つ答えましょう。

【3】見出しの□に当てはまる言葉を記事の中から3文字で探して答えましょう。

【4】記事を読んで心に残ったエピソードや言葉は何ですか。またそれはなぜですか。

(例1) エピソード…約10種類の餌や干し草を何度も繰り返しあげたこと。

理由…「想像以上にこたえた」と書かれていて、牛の命を守るために毎日大変な苦労があることを知ったから。

(例2) 言葉…部長の後藤さんの「なでて褒めたり、歩幅を牛に合わせたりすることが大切」という言葉。

理由…相手が牛でも、人間と同じように思いやりを持って接すると心が通じることもある、ということに気付いたから。

心に残ったエピソード／言葉

〔

心に残った理由

〔